



五色塚古墳館

Goshikizuka Tumulus Guidance Center



ご利用案内

開館時間 / 9:00 ~ 17:00 (入館は 16:30 まで)

休館日 / 月曜日 (祝日の場合は翌日)

年末年始 (12月29日 ~ 1月3日)

入場料 / 無料

交通案内

- 山陽電鉄霞ヶ丘駅から徒歩 5 分
 - JR 垂水駅・山陽電鉄山陽垂水駅から徒歩 10 分
 - 山陽バス 1 系統「五色塚古墳前」から徒歩 5 分
- 〒655-0035 神戸市垂水区五色山 4 丁目 11-7
TEL & FAX 078-707-3131



神戸市文化財課 X



神戸市文化財課 facebook



神戸市文化財課 instagram



神戸市文化財課 五色塚古墳 HP



2F体験ひろばにある、古墳を描こうで
4つのスタンプを重ねてみよう!



GOSHIKIZUKA



KOBE CITY of DESIGN



五色塚古墳館

Goshikizuka Tumulus Guidance Center

ようこそ

史跡五色塚(千壺)古墳 小壺古墳へ

五色塚古墳は、墳丘の全長 194m、後円部の高さ 18.8mの、兵庫県で一番大きな前方後円墳です。円墳である小壺古墳とともに、周濠と周溝で二重に囲まれています。

墳丘は三段に築かれ、下段の斜面には古墳付近で集めた小さな石を葺き、中段と上段の斜面には淡路島から運ばれた大きな石を葺いていました。

墳頂と各段の平坦面には鰭付円筒埴輪・鰭付朝顔形埴輪をめぐらせていて、およそ 2,200 本立てられていたと推定されます。

濠の中には東西のくびれ部付近に島状遺構が造られているほか、埴輪棺を埋めた北東マウンドもありました。

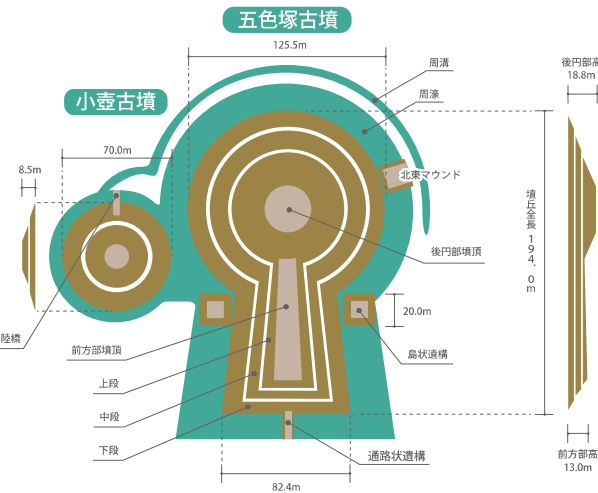
埋葬施設の発掘調査は行っておらず、被葬者については、未だ不明な点が多く残されています。



台地上に造られた古墳(復元CG)



斜面を覆う葺石



古墳のなぞ

五色塚古墳は、本州と淡路島との間の、明石海峡を望む台地の上に築られました。

ヤマト王権の中心地域への西の玄関口であり、朝鮮半島や中国大陸との、海上交通が重視されたことを背景に、この地に造られたのでしょう。



【明石海峡を望む五色塚古墳】

古墳を解き明かす



【円筒埴輪を利用した棺】
北東マウンドの西斜面から、円筒埴輪棺が2基出土しました。1基は埋め戻して保存しています。



【西側くびれ部の埴輪列と葺石】
上段と中段の斜面には、淡路島から運んできたやや大きめの石、下段には周辺で集めた拳大の石を葺きました。



【墳頂と各段に並べられた円筒埴輪】
溝を掘った後に、埴輪を立て並べています。4～5本に1本、鰭付朝顔形埴輪がありました。



【東側くびれ部の島状遺構】
1辺20mの方形で、土を盛って造られました。斜面に葺石があり、埴輪をめぐらせていました。



【前方部南側の通路状遺構】
古墳の下段と、周濠の外側をつなぐ通路のような遺構です。



【周濠の外側をめぐる周溝】
周濠のさらに外側には、幅3～5mの周溝がめぐってました。周濠と周溝の間にある外堤部分から埴輪が見つかっています。



【石製合子】
石製合子は副葬品の一部と考えられます。

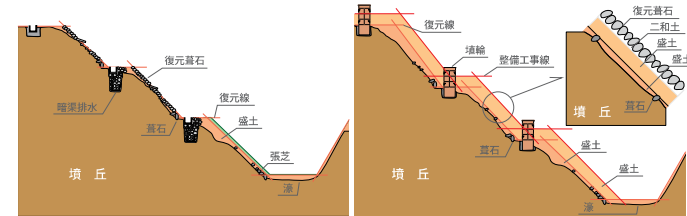


【鰭付円筒埴輪と鰭付朝顔形埴輪】
五色塚古墳・小壺古墳の埴輪は、左右に突出部(鰭)があり、規格が統一されていることが特徴です。

古墳の復元整備

戦後、荒廃の進んだ五色塚古墳を守ろうと初めに声をあげたのは、地域の人々でした。同じころ、明石海峡大橋の建設計画もあったため、現代と古代の土木技術の粋を一望できる、日本で初めての古墳復元整備が構想されました。

1965年から発掘調査をしながら復元工事も進め、1975年に全面復元され公開されました。



前方部復元計画模式図

後円部復元計画模式図

前方部は、崩れた斜面と葺石を元に戻して復元しています。一方、後円部は、全面に盛り土をして、新たに購入した葺石で復元しています。

